

## A. 国内研究プロジェクト

### 国内研究プロジェクト概要

センター教授 秋田 喜代美

「学習環境改善のための学校支援システムの比較調査および開発研究」と題するプロジェクトに取り組む第2年次に実施された研究は、本ネットワーク原稿に納められているように、大きくは3種類の研究内容、5つの下位研究から構成されている。

昨年からの継続研究としては、第1に質問紙調査による生徒・保護者・教師への学習環境に関わる調査研究の分析（関東・関西2市での調査、東大附属調査）である。2市での調査では、学習における学校間差や性差というこれまで十分に問われてこなかった変数に注目した分析を試みた。また東京大学附属中等教育学校においては、学校での成績と家庭・学校での学習行動との関連調査、東大附属の大きな特徴となっている卒業研究に関わる調査研究をまとめた。また東大附属の先生方との研究交流をはかる意味からこれらの研究結果はすでに報告等をさせていただいているが、本誌では附属学校の鈴木一史先生にもご寄稿をお願いした。

また第2には、横断的な調査研究だけではなく、縦断的な生徒の学習に関わる観察調査研究（京北中学校）である。中1で入学した生徒への継続観察調査および第1と同種の調査研究にご協力をいただくことができた。昨年度は入学からの1学期間を中心にしたが、本年度は中1 1年間を通しての学習と成績との関連を分析し、また授業談話構造の学期変化が現在分析されている。

第3に、客員教授・助教授および連携協力者とのアクションリサーチによる授業研究・校内研修の事例研究である。この内容の一部については、客員の先生方に個々の御立場から寄稿していただいた。また平成16年度から、

全国で校内研修や授業研究に関わっている研究者や実践者のネットワーク形成のために、「教育のアクションリサーチ研究会」の設立がなされ、140名の参加があった。本ネットワーク誌には、研究会会長の佐藤学研究科長の講演記録（その後に加筆修正）を収めている。この研究会ネットワーク組織は次年度17年度以後にも継続して、学校教育の国内連携ネットワーク研究の拠点としての機能を担っていくものとなるであろうと考えられる。事例研究を積み重ねることによって、学校での学習システムを記述する理論化も検討されてきている。

また本年度は、国際研究プロジェクトとの連携で、新たな試みとして、現在の日本の小中学生にとって、地域の中で学校・家庭と並んで重要な学習環境の一つとなっている塾に関するフィールドワーク調査研究が始められた。塾の問題は、わが国だけではなく、韓国はじめアジアの教育において重要な課題である。また授業ビデオインタビューが国際プロジェクトとの連携によって国内の学校でも面接調査が実施されはじめている。

プロジェクト期間として残されたあと1年にできることは、限られているかもしれない。しかし、来年度にむけてこれらの研究をさらに分析を進め、整理統合化していくことによって、学校支援システムのあり方を考察することが今後に残された最も大きな課題である。

なお、本稿に寄稿されている研究の多くは、頁数の関係からいずれも研究の一部や概要を紹介する形で掲載されているものが多い。より詳細な内容についてお知りになりたい方は、個々の研究担当者に問い合わせいただきたい。